

地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会実施報告

イベントプログラムが平成 21 年 11 月 3 日に明日香村のイベント「明日香まるごと体験ウォーク」と連携して実施された。これを踏まえて、住民、関連団体による「第 4 回 地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会」を実施した。

- ・日時：平成 22 年 4 月 27 日 13:30～15:30
- ・場所：国営飛鳥歴史公園事務所
- ・目的：①公園と地域の連携のあり方についての意見交換
②平成 22 年度以降の開園前イベントプログラムのイメージ共有

■参加団体

- ・飛鳥京観光協会
- ・飛鳥管理センター
- ・あすか劇団「時空」
- ・飛鳥古京顕彰会
- ・飛鳥里山クラブ
- ・飛鳥保存財団
- ・明日香村地域振興公社
- ・明日香村地域振興室
- ・明日香村地域づくり課
- ・明日香村伝承芸能保存会
- ・大根田大字
- ・大化塾
- ・檜前大字
- ・みのり会

■議事要旨

公園事務所より配付資料について説明した後、意見交換をした。

(1) 今後の議論のあり方について

【活動団体】

- ・議論を進めるにあたって、懇談会の趣旨、これまでどのような議論がなされてきたか、公園整備事業がどの段階まで進んでいるのかを明確にすべきである。
- ・皆が集まって情報共有が出来る場をつくることは重要であるが、今回のような年 1 回程度の懇談会形式では議論がなかなか積みあがらない。
- ・連携のあり方について議論する際には、施設計画を示した上での具体的な議論が必要である。
- ・公園事務所は地域の各団体の活動を実際に体験したうえで、必要な施設やその仕様について現場で意見交換すべきである。
- ・住民参画の事実だけが残り、設計等に反映されないのであれば意味がない。

- ・施設等の計画・設計について意見が出されてきたが、公園事務所側は住民の意見を反映させていくことが必要。また、住民側も提案した事項が反映されたかを積極的に確認していくことが必要である。
- ・地域との連携を進める際には、住民へもっと配慮すべき。5月の石舞台地区のイベントや、国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開では、住民への配慮が不十分だった。
- ・国の機関等での検討内容等について、できるだけ早く住民に提供すべきである。

【公園事務所】

- ・今回の懇談会は、平成 22 年・23 年等の直近時点に何をするか、また、開園後に何をするかについて意見を頂くために開催した。
- ・現在、公園整備は、全体ゾーニングや施設の配置計画に基づき、基盤整備や調整池等の工事段階である。施設等の詳細設計についてはまだ先だが、計画・設計の各段階で反映できることはあると考えている。
- ・住民の意見を聞いたうえで、どのように反映するのか（反映したのか）を示すこと、また、意見が反映できない場合には理由を示すことが必要であると理解した。

(2) 明日香まるごと体験ウォークとの連携について

【明日香村】

- ・明日香まるごと体験ウォークは、初年度の平成 19 年は奈良県主催で実施し、以降は明日香村の主催で春・夏・秋の 3 回実施している。
- ・平成 21 年度は春 1,000 人、夏 100 人、秋 1,300 人程度の参加者があった。
- ・平成 21 年度秋は、体験ウォーク目的の参加者、キトラ古墳周辺地区のスタンプラリー目的の参加者、檜前遺跡見学会目的の参加者の誘導がうまく行かず、混乱したところがあった。
- ・連携する際には、各団体へ早めの声かけが必要である。
- ・協力大字も増えてきている。

【活動団体】

- ・これまで大根田大字は、体験ウォークの通過点であったが、参加できていなかった。今後は積極的に参加していきたいと考えている。

(3) キトラ古墳壁画の保存管理場所について

【活動団体】

- ・キトラ古墳壁画をどのように扱うか情報が流れてこない。文化庁は早い時点で方針を示すべきである。
- ・なるべく元の墳丘の近くに設置することが望ましい。

【公園事務所】

- ・文化庁の検討会において、明日香村の中に壁画を保存管理することが決められている。現在は、明日香村のどこに保存管理するか検討されているところである。

(4) 公園整備・運営について

【活動団体】

- ・キトラ古墳周辺地区は芝生公園にはなあってほしくない、以前から住民の多くが指摘していることなので、慎重に検討すべきである。例えば、最近整備された甘樫丘地区のクヌギ林の下における芝生等は植生上もおかしいのではないかと。
- ・各団体の活動が開園と同時に上手く機能するよう、現段階から実験的な取組をしていく必要がある。例えば、園内において試しに地域の人と一緒に作業小屋を作ったり、バス停に屋根を設けたりして、利用しやすさや景観の検討を試みる等。
- ・飛鳥時代の生活空間が再現されていて、その中でクラフト等の体験ができる場づくりが必要である。
- ・飛鳥は、木陰がない、雨宿りができない、食事できる場所が少ない等の課題があり、特に団体観光の際に困るため、解決方策の検討が必要である。
- ・伝承芸能については、生活文化のある風景を見ていただきながら、伝承芸能の実演を観てもらえることが重要である。
- ・構想段階だけでなく施設的设计段階での意見も求めるべきである（実際の活動実績を活かした提案を述べやすい）。
- ・年間のイベント計画を早く示してくれれば日程調整して加わることができると思う。

【公園事務所】

- ・キトラ古墳周辺地区の計画では、田園環境や貴重な植生を保全する計画にしている。活動の場となる広場は整備するものの、単に芝生公園となるような計画にはしていない。
- ・甘樫丘地区における芝生整備については、どのような設計意図なのか確認する。
※後日確認したところ、クヌギ林の下の斜面が急で危険だったため、盛土して緩やかな斜面にし、その土砂の流出を防ぐために取り急ぎ芝生整備をしたとのこと。いずれ在来植生に置き換わっていくものとの考え。
- ・細かな仕様等について、検討が進んだ段階で意見を頂く機会を継続的に設けることを検討したい。